

保護者の皆様

令和５年度第１回「生徒による授業評価」集計結果について

1 授業評価の概要と結果

大項目	設問	小項目
授業の在り方について	1	毎時間の授業や単元のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	2	単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	3	単元（内容のまとまり）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
学習の状況について	4	授業の中で身につけたことや、できるようになったことを実感することができた。
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。

(1) の項目について次の4段階で評価を行った。

3 ほぼ当てはまる

1 ほとんど当てはまらない

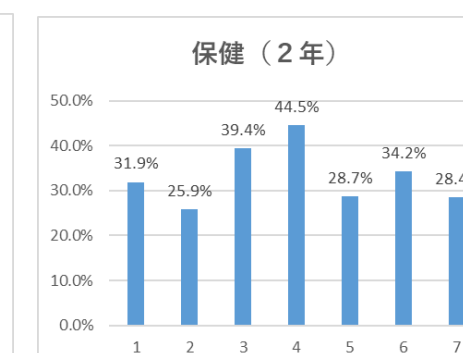
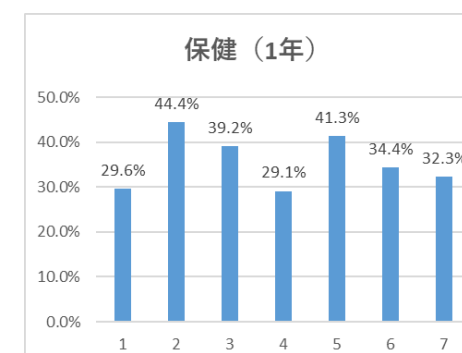
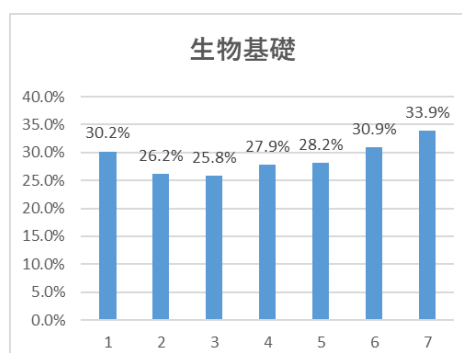
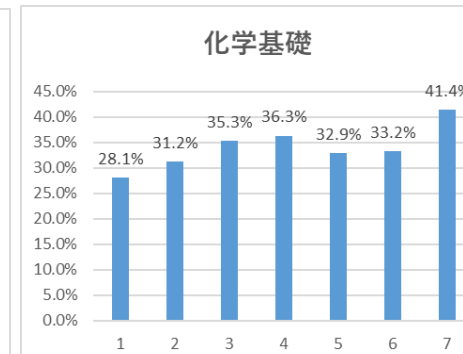
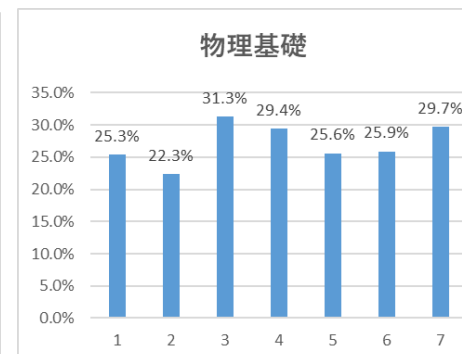
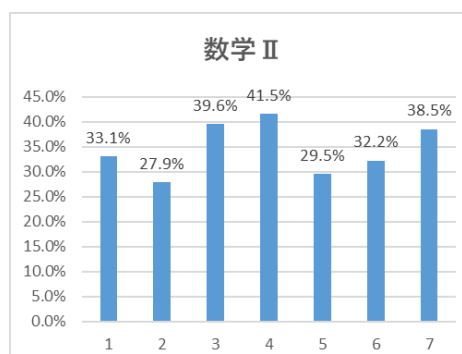
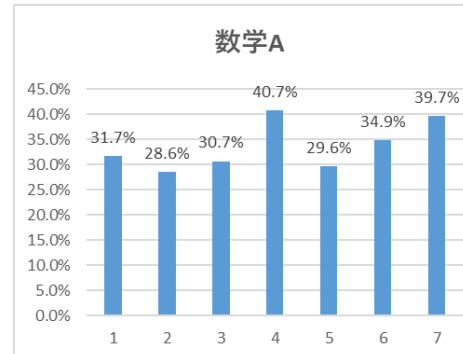
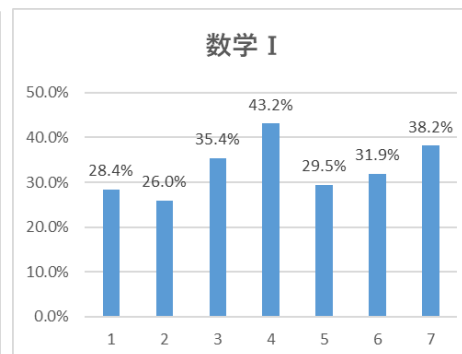
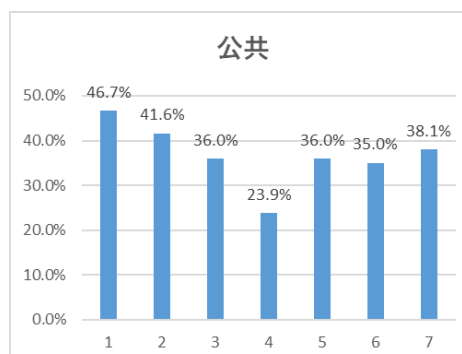
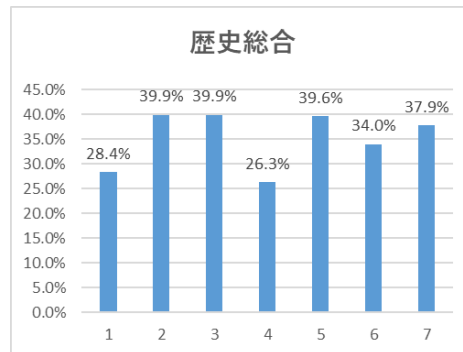
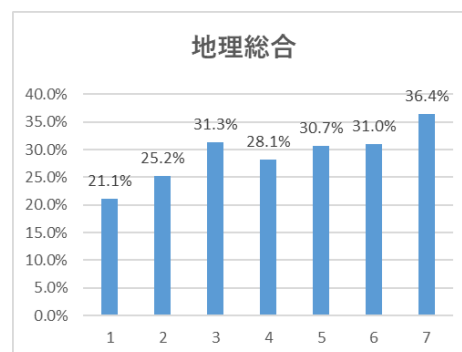
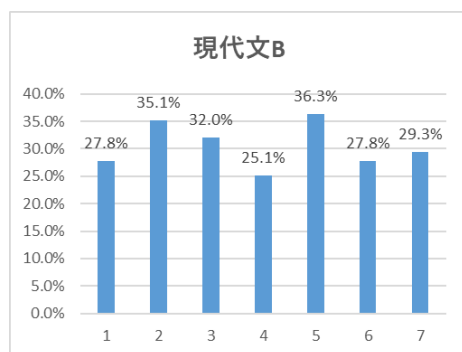
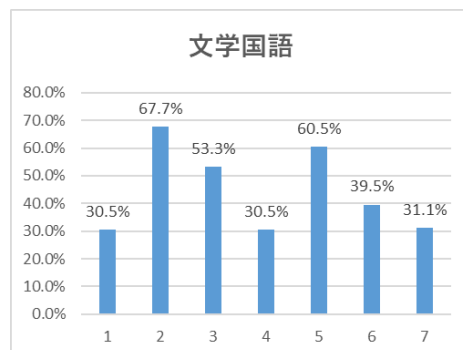
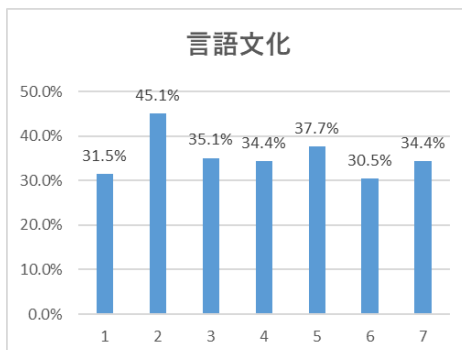
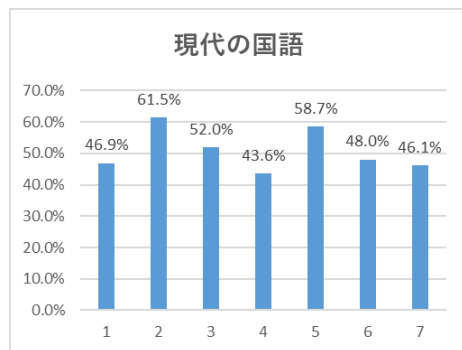
教科ごとに集計を行い、小項目の評価が「4 かなり当てはまる」の割合を算出した。教科ごとに「4 かなり当てはまる」の割合が最も高い項目には塗りつぶし太字、最も低い項目には下線斜字で明示した。

設問	1	2	3	4	5	6	7
国語	<u>30.6%</u>	45.2%	37.7%	31.0%	41.7%	32.9%	33.5%
地歴・公民	31.7%	34.3%	34.8%	<u>30.1%</u>	34.9%	33.2%	38.8%
数学	29.3%	<u>27.0%</u>	34.9%	38.9%	28.4%	31.6%	37.1%
理科	32.3%	<u>30.4%</u>	35.2%	34.4%	31.3%	33.0%	38.9%
保体	35.9%	37.2%	42.6%	41.1%	36.1%	38.3%	<u>35.2%</u>
芸術	37.9%	39.8%	37.4%	44.2%	39.5%	<u>35.8%</u>	37.7%
外国語	<u>30.2%</u>	37.1%	32.6%	33.3%	32.4%	31.4%	35.0%
家庭科	35.7%	38.6%	36.9%	<u>21.3%</u>	34.9%	28.5%	26.5%
情報	25.9%	20.5%	28.3%	22.1%	<u>18.4%</u>	24.3%	24.5%

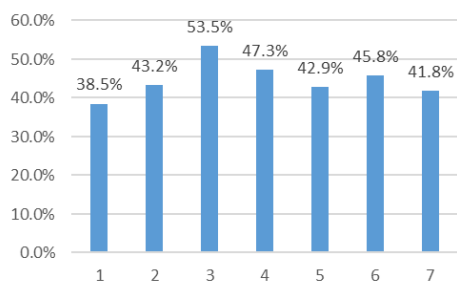
各教科の分析と改善の手立て

	分析	改善の手立て
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・設問2の割合が45.2%と最も高くなっている。授業において、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できていることの結果であると考ええる。 ・設問4が31.0%と低くなっている。これは、設問1の割合の低さ（30.6%）が影響していると考ええる。授業の中で、学習のねらいの提示や、学習したことへの振り返りの機会が不足しており、知識・技能が身についたかどうかを実感することが難しかったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の中での言語活動を通して、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるような「対話的な学び」の機会をさらに増やしていく。 ・単元ごと、授業毎において、学習のねらいの提示や授業の振り返りを確実に行うことによって、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」の機会をさらに増やしていく。
地歴 公民	<ul style="list-style-type: none"> ・設問7の数値が昨年度に続き高い傾向にある。このことは、地歴公民の各科目の内容が相互に関連し、人類社会の様々な要素を結びつけて学んでいく、という教科の目的を達成できている、ということを表していると思われる。 ・設問1・4の数値が低い傾向にあるのは、授業内で講義やワークに割り当てている時間が多く、「ねらい」の提示や振り返りの時間が不足している結果だと考えられる。 ・その他の項目については、いずれも昨年度の数値より向上しており、新カリキュラムの科目を中心にペア、グループなどワークなどの機会が増加していることに起因するものだと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用や講義内容の精選により、振り返りや演習の時間を授業外でも確保できるようにするとともに、教員のチェックの手間を効率化していく。 ・引き続き、短時間でのペアワークを多用することにより、授業時間を圧迫せずに他者の考えを知る機会を充実させていく。 ・ICTを活用して個々の意見を発表させることにより、よりも多くの人の意見を相互に知ることができるようにする。また、知識定着をはかる小テストなどもこの方法で実施し、生徒が「できるようになったことを実感する」機会を充実させていく。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・設問4と設問7の項目が高い数値が出ている。授業の中で考える時間と演習時間を確保できている、授業や教科書の内容が定着していることが考えられる。 ・設問2と設問5の項目が低い数値が出ている。生徒がお互いに自分の解法等を話し合う時間を設けているものの、解答が終わっている生徒でも自分の解答に自信がなく、他者に自分の考えを紹介できないことが原因だと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが正解かどうかは問題ではなく、他者の考えから新たな発見や考え方が浮かぶことは多くあるため、正解にこだわらず互いに自分の考えを伝えられるよう指導する。 ・現在の共通テスト等は、自分の解法での解答ではなく、他者の考え方について誘導的に考えさせる問題もあるので、これを通して機会を設ける。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・「設問7、授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた」において「かなり当てはまる」と回答した生徒の割合が他の項目と比較して高かった。このことから、学習の前後の内容の関連性を理解できていると考えられる。一方で「設問2、単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」において「かなり当てはまる」と回答した生徒の割合は他の項目と比較してやや低かった。このことから授業中に他者と意見を交換する機会が少なかったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「設問2」の改善に向けて授業の中でグループワークやペアワークを取り入れるなどして、他者の考えや自分の考えを共有する機会を設ける。
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> ・設問3【単元（内容のまとまり）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある】が「かなり当てはまる」の高い割合になっている。しかし設問7【授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた】「かなり当てはまる」の割合は低くなっている。 このことから授業内で、【設問3】について生徒が自ら考えをまとめたり、解決方法について考えさせる課題や練習を、教員が設定することができていると考えられる。 【設問7】については、教科の特性から保健であれば、1時間ごとに単元が変わったり、体育であれば、種目が変わったりすることから、「かなり当てはまる」の割合が低くなっていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分析した通り、【設問7】についての改善は教科の特性上難しい部分があるが、保健であれば、単元ごとに分断せずに前時の授業の復習から授業を行うなどして、関連付けていきたいと思う。体育であれば、種目は違えど、「型」が同じの場合は大切な要素が似ている部分があるので、関連付けていきたい。
芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての質問項目に対して、多くの生徒が「かなり当てはまる」および「ほぼ当てはまる」と回答しており、授業に対する満足度はおおむね高いことが見られる。 ・その一方で、「授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた」が35.8%と低くなっている。毎時間の授業で、振り返りの時間が不足しており、考える時間が短かったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技科目としての特徴を生かし、引き続き、生徒の興味・関心を高める授業構成、教材開発を考えていきたい。 ・鑑賞や振り返りの時間を増やし、知識や考えを深めることのバランスを工夫していきたい。 ・適切な場面に効果的な学習方法（考えることの大切さ）を取り入れ、今後もより良い授業展開となるよう努めていく。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・7つの質問項目に対して、それぞれ「かなり当てはまる」と回答した生徒の割合は、おおむね30%から35%であった。昨年度(R4)アンケートにおいて、いずれの項目でも20%台であったことを考えると、生徒の3分の2が新カリキュラムとなった今年度は、職員・生徒ともに主体的・対話的な学びを意識的にやっている様子がうかがえる。一方、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考える活動は行っているが、生徒の達成度合いはそれほど上がっていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の在り方については、授業の連続性や単元の個性を鑑みながら、学習のねらいを適宜明示するように心がけたい。考えをまとめたりする活動は、各学年及び教科で行っているものの、生徒が満足する達成感を得られるレベルには至っていないようなので、課題を精選して実施する。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての質問項目に対して、多くの生徒が「かなり当てはまる」および「ほぼ当てはまる」と回答しており、授業に対する満足度はおおむね高いことが見られる。 ・その一方で、「授業の中で身につけたことやできるようになったと実感することができた」が21.3%と低くなっている。1学期の単元が将来設計や結婚、相続などの民法に関することだったため、活用する場がなかったためと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元のなかで、他者の考えを知り自らの考えを広める活動に関しては、これからの社会で求められる力である「リーダーシップ力」を伸ばすことにもつながるため、今後も効果的に実施していく。 ・実習実験を増やし、知識や考えを深め、実生活と結び付けられるような授業展開を構築していく。
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・質問2・5の他者との関わりに関する質問は、1学期の学習内容からあまり良い結果にはならなかった。これは、知識習得を中心とした授業展開であったためと考えられる。 ・質問1・3・6・7は、「かなり当てはまる」・「ほぼ当てはまる」を合わせると80%程度であった。特に質問1・7については、他教科との関連を理解してくれたのではない。 ・自由記述では、課題に対しての時間が足りないという意見が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの学習内容を実践し、他者の意見を聞き協働作業をすることで他者を意識させる授業展開をしていく。 ・2学期以降も他教科との関連を考えさせる。 ・課題を取り組む時間を増やしていく。

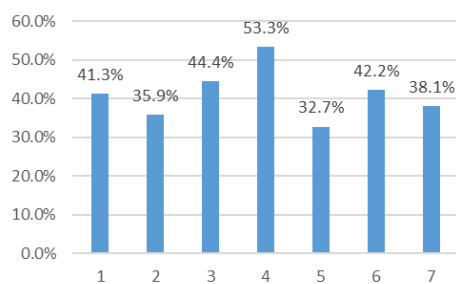
2 科目別・項目別評価「4 かなり当てはまる」の割合（各学年必修科目のみ記載）



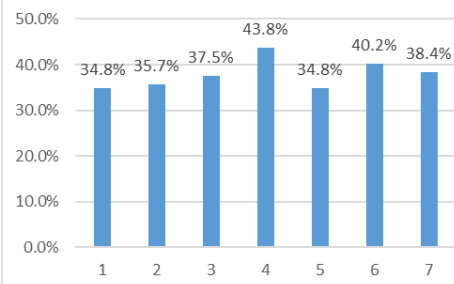
体育（1年）



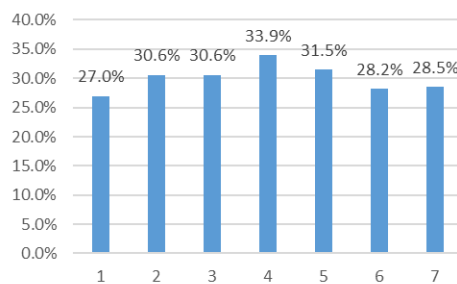
体育（2年）



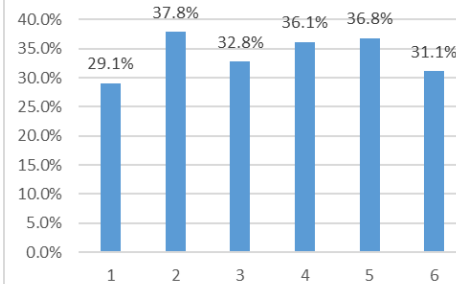
体育（3年）



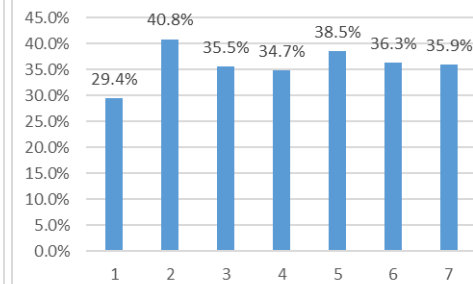
芸術 I



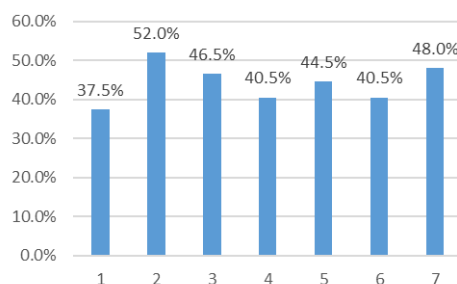
英語コミュニケーション I



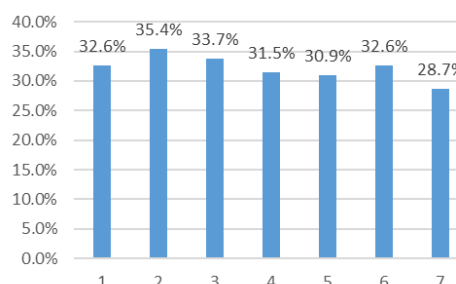
論理・表現 I



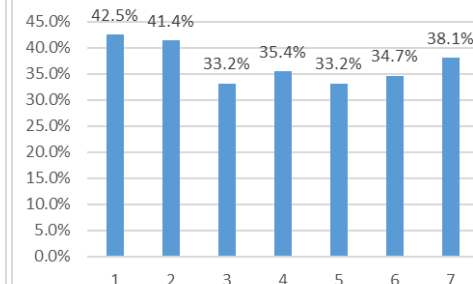
コミュニケーション英語 II



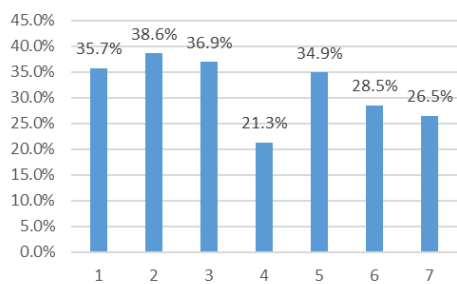
論理・表現 II



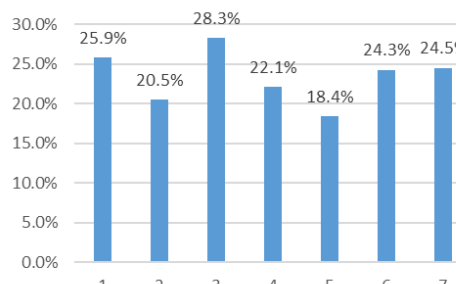
英語表現 II

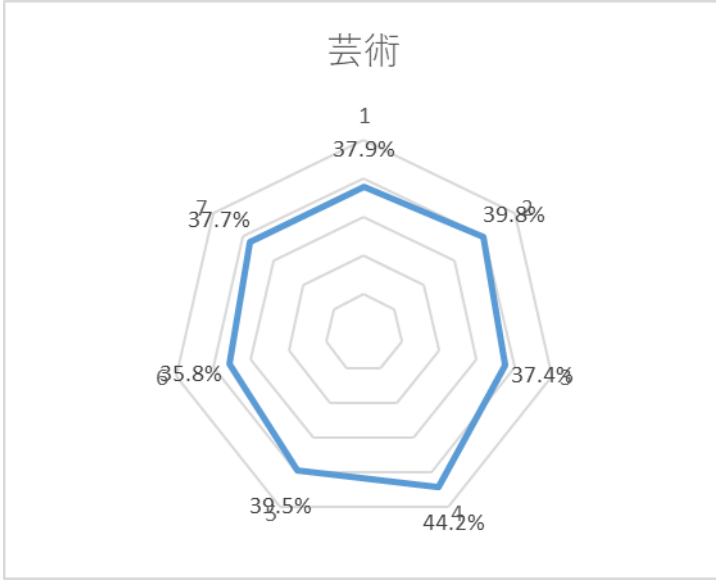
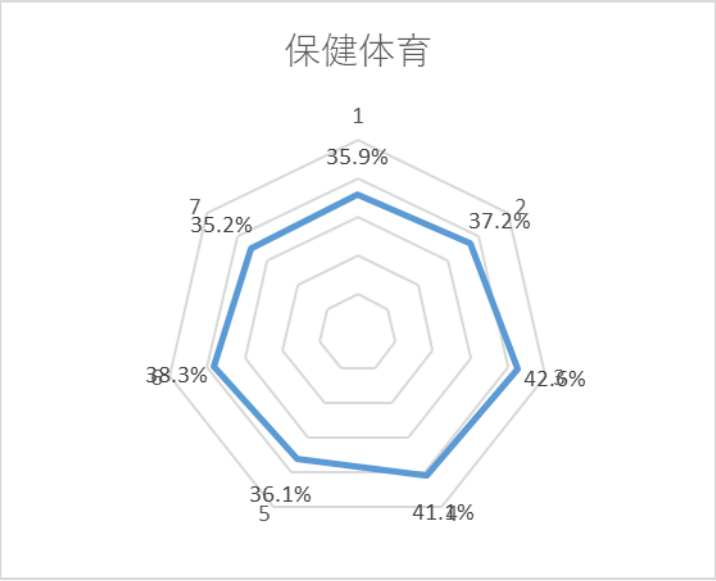
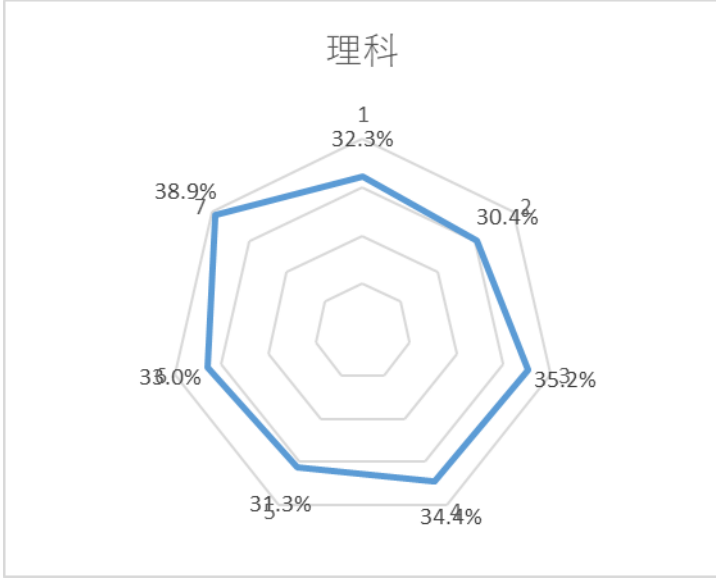
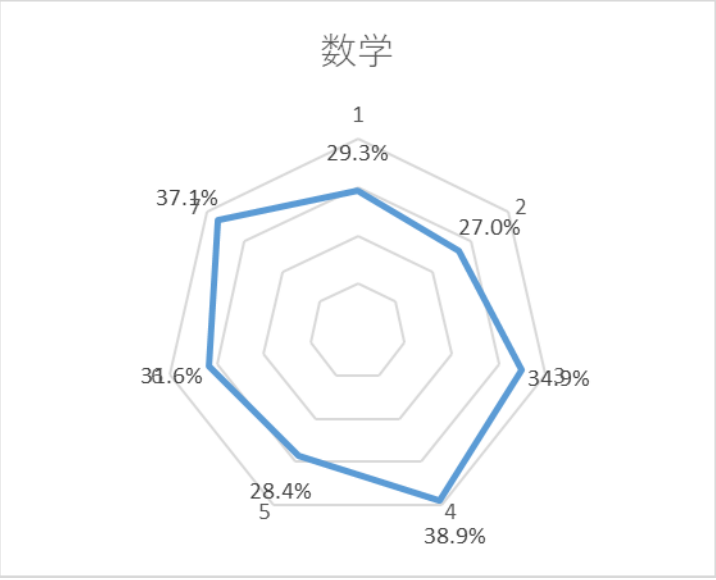
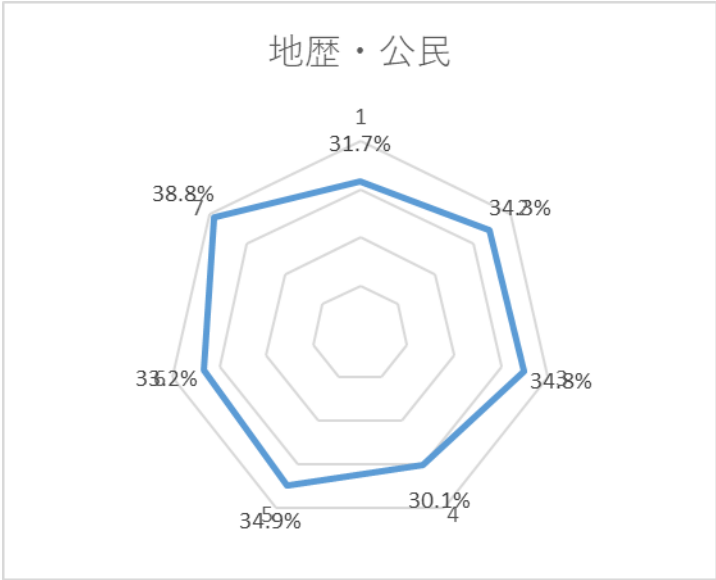
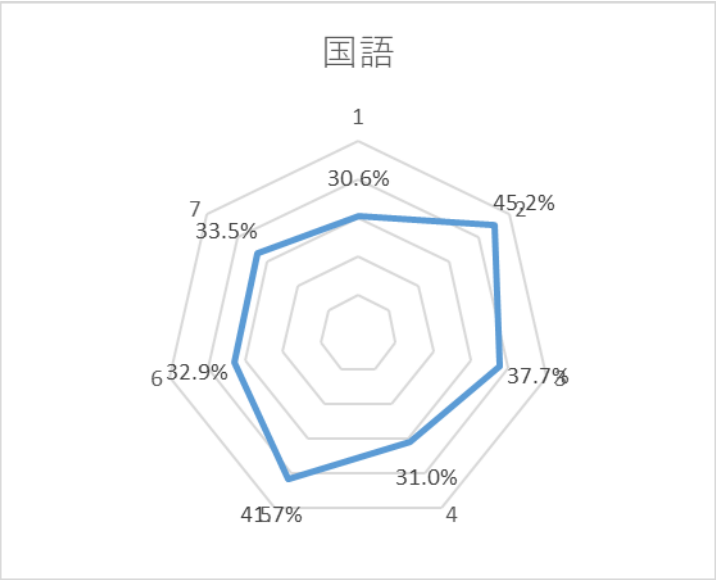


家庭基礎

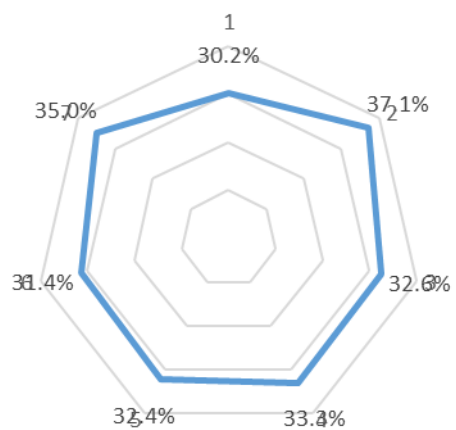


情報 I





外国語



家庭科

